

- 多面的機能支払組織の設立を契機とした、地域の活動を通じ、地域の将来を見通した地域ビジョンを検討。
- 農地整備を契機とした集落営農法人連合体の設立により、農地集積・集約化と人材育成、農業経営の多角化。
- 地域外からの参加を促す交流行事等への参画を通じ、都市農村交流による地域活力の創出。

取組前

未整備の生産基盤

いわなが ほんごう
岩永本郷地区

【営農規模】40ha
【経営体数】96戸
【標準区画】10a
【作目】水稲：26.5ha
大豆：7.3ha
麦：5.9ha
白菜：0.3ha

- 不整形で狭小な農地、狭く湾曲した農道や老朽化した用排水路など、生産性が悪い生産基盤
- 排水不良の農地も多く、汎用化が困難で、高収益作物の栽培ができないなど、法人設立に支障
- 農業者の高齢化の進行が顕著で、多くの農業者が営農継続に危機



基盤整備前の岩永本郷地区

取組内容

環境保全協議会の設立

多面的機能支払交付金（H19～）

本郷地域の農業農村を考える会（H25～26）

集落営農法人の設立

（農）ほんごうファーム（H27～）

農地整備の実施

農業競争力強化農地整備事業（H29～R6）

岩永本郷東地区（H29～R5）24.5ha
岩永本郷西地区（R1～R6）12.7ha

- ・ 区画整理、用排水路の整備、農道整備
暗渠排水の整備 等



※ 負担割合 国：県：市：地元＝55：30：7.5：7.5

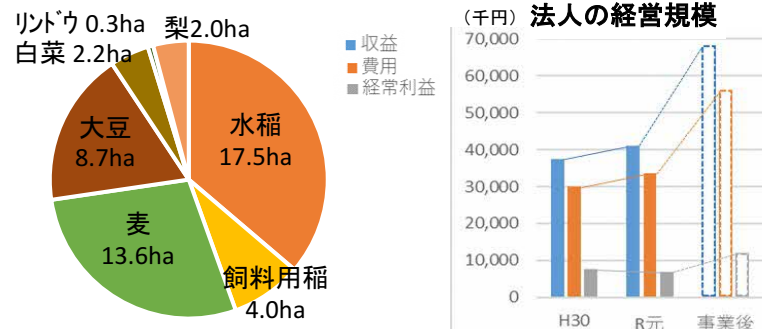
取組後

法人と法人連合体が一体となった複合経営の展開

いわなが ほんごう
岩永本郷地区

【営農規模】48.3ha
【経営体数】（農）ほんごうファームと、連携する周辺地域の6法人など
【標準区画】50a
【作目】水稲：17.5ha 飼料用稲：4ha 梨：2.0ha
麦：13.6ha 大豆：8.7ha 白菜：2.2ha
リンドウ：0.3ha 等

※ 面積は事業完了後の予定面積



【農地の集積・集約化と新たな担い手の確保】

- 集落営農法人を設立し、農地を集積・集約するとともに、大型機械の導入による農作業の効率化や、地域特産の梨、リンドウなどの花き栽培に取り組むなど、経営を多角化
- 農大卒業生3名の雇用をきっかけに「ヤングファーマー育成研修会」を開催し、後継者育成の取組を展開

【法人連合体の設立による連携強化】

- 地域の7つの法人、担い手農家、及びJAが連携し、規模拡大による農作業の分散化や協業体制を強化し、持続可能な地域農業経営を推進（R1.3設立）

☆ 地域資源を維持管理するための地域活動の支援

多面的機能支払交付金を活用して、地域ぐるみで草刈りや水路の泥上げなど維持管理活動を共同で行い、地域全体で営農を支えていく体制づくりを推進

◆ 誰がどのように・・・？

多面的機能支払の活動をきっかけに、地域の将来ビジョンを検討するため「地域の農業農村を考える会」を設立し、同会長が中心となって話し合いを重ね、持続可能な農業経営とその条件整備が必要との意見がまとまり、法人設立と農地整備の実施を決定

きっかけ

不整形で狭小の農地による非効率な営農
高齢化の進行による
地域衰退の懸念

Step1 (H19～)

多面的機能支払

- 「岩永地域環境保全会」を設立
- 地域住民を含む活動組織により、農地等の保全管理に取り組み、共同活動を推進

Step2 (H25～)

地域の連携

- 共同活動を通じ個人農家の高齢化、後継者不在などの課題が浮上
- 多面組織の地域代表が、市農業委員会、JA等と連携し、課題解決に向けた話し合いを実施し、本郷地域の農業農村を考える会の設立を決定

Step3 (H27～)

農事組合法人の設立

- 地域の農業を守る受け皿として持続可能な農業経営を目指す法人を設立
- 地域の連帯感を醸成する取組を法人で実施

Step4 (H27～)

新規に農大卒業生を雇用

- 集落営農法人設立後、持続可能な法人体制に向け、山口県立農業大学校と連携し、H27から卒業生を雇用。R2現在3名従事

農業大学校との連携

- ・ 山口県立農業大学校と連携し卒業生を雇用。大学で学んだ品目を法人経営に取り入れ経営と職員の意欲をマッチング

ヤングファーマー養成研修

- ・ 行政と法人が連携し、高校生の農業に対する職業観を醸成し、次代の農業を担う後継者を育成することを目的に実施

☆ 農業大学校との連携の取組

持続可能な法人体制構築に向けて農業大学校との連携による雇用の確保、花卉栽培技術を活用した品種改良による経営多角化を推進



地域交流行事への参画



山口県オリジナルのリンドウ「西京の初夏」

ヤングファーマー養成研修
の新聞記事



将来に向けて

- ☑ 法人の経営安定化に伴う新規及び継続的な雇用により、地域農業を担う人材の確保・育成
- ☑ 農産品の直売や、農産加工品の商品開発による6次産業化、大手小売店との連携による販路拡大など法人経営の多角化

今後の展望

Step6 (H30～)

集落営農法人連合体の設立

- 農業の持続経営のための効率的な経営管理による低コスト化と、新たな事業展開に向け、JA職員OBを中心に旧町の法人・担い手が法人連合体の設立に向け検討を開始
- (農)ほんごうファームを含む地域の7法人・担い手農家が連携し、集落営農法人連合体「株式会社 カルスト秋芳」を設立(H31年3月)
- 岩永本郷地域の取組を周辺地域に波及

Step5 (H29～)

中山間地域の農地整備

- 法人経営基盤の強化に向け、生産性の向上や、地域農業の連携を図るため、区画整理や用排水路の整備、農道整備、汎用化を図る水田高機能化、獣害防止柵の整備に着手

農業競争力強化農地整備事業を活用